

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市都市計画審議会小委員会(第3回)				
事務局 (担当課)		まちづくり計画部 都市計画課 電話042-769-8247(直通)				
開催日時		平成26年3月11日(火) 10時~16時45分				
開催場所		市内一円(視察)				
出席者	委員	7人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	13人(都市計画課長、他12人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	-
公開不可・一部不可の場合は、その理由		バスによる視察のため				
会議次第		1 第7回線引き全市見直しについて (1) 市内の視察 (2) 意見交換会				

審 議 経 過

(1) 市内の視察

概ね以下の行程で、主に津久井都市計画区域及び相模湖都市計画区域の視察を行った。

橋本駅	アリオ橋本周辺	津久井広域道路	川尻大島界地区
圏央道相模原インターチェンジ建設地	金原地区	太井地区	
中野地区	三ヶ木地区	串川地区	鳥屋地区
青野原地区	青根地区	牧野地区	日連地区
藤野駅周辺	相模湖駅周辺	県立相模湖公園	千木良地区
相模湖プレジャーフォレスト	津久井総合事務所（意見交換会）		
城山ダム	橋本駅		

(2) 意見交換会

日 時 平成26年3月11日（火）午後2時30分～4時30分

会 場 津久井総合事務所 第1会議室

出席者 都市計画審議会委員 7名

津久井地区、相模湖地区、藤野地区にお住いの市民 7名

事務局（都市計画課長 他12名）

内 容

都市計画課長からの挨拶の後、地区ごとに「地域の状況やまちづくりの課題、住民の就労、通学、コミュニティの状況について」発言をしていただき、その後意見交換。主な意見等は次のとおり。

...都市計画審議会小委員会委員の発言

...津久井地区、相模湖地区、藤野地区にお住まいの市民の発言

< 津久井地区にお住まいの市民 >

生活交通の確保、鳥獣・ヤマビルの被害などが地域の課題

人口減少を食い止めるには、津久井広域道路の早期整備が望まれる。

リニアの車両基地整備が地域の発展につながるとよい。

< 相模湖地区にお住まいの市民 >

鉄道や高速道路など、交通の利便性が高いにもかかわらず、駅周辺も人口が減少している。

都市部から相模湖駅周辺に住みたいというニーズはあるが、土地の流動性が
高くないこともあり、駅周辺のまちづくりや道路の拡幅等を行う上での課題と
なっている。

相模湖の観光客の減少に伴い商業が衰退していった。また、相模湖と駅をど
う結ぶかが課題。

就労、通学は、8割から9割が都心方面。

横浜線の相模湖乗り入れを要望している。

< 藤野地区にお住まいの市民 >

山間部のため河岸段丘の一部に人口が張り付いている状況。平坦地がなく、
開発も難しい。

地区の北部、中央部、南部にある小学校を中心にまちづくりをしたら良いの
ではと思う。

無理に相模原地域に合わせる必要はない。藤野らしく生活ができればよい。

就労、通学は、都心方面と山梨方面が主である。

津久井地区はリニア中央新幹線の車両基地、相模湖地区は駅前の活性化、藤
野地区は大雪等の災害の際の孤立の問題など、各々の地区が抱える課題も様々
であるが、どこも同じような「まち」にしてしまっても意味がないので、それ
ぞれの地区の良さを活かしつつ、安全で快適なまちづくりを行っていくべきで
はないか。

地区ごとに就労や通学、コミュニティ等の状況をお伺いしたい。現在と将来を
含め、各々の地区で暮らしていくとしたら、どんな仕事に就いて生計を立ててい
くのか、また何かあったときの助け合いはどうされているのか。

就労の場が地域に少ないため、地域外で就労する者が多くなり、結果として地
域コミュニティが希薄化する。現状では消防団員の確保も難しいような状況であ
る。(津久井地区)

就労は中央線を利用して東京方面という方が多いように思う。市役所までの
所要時間と新宿までの所要時間がともに1時間であれば、就労は都心でというこ
とに自然となる。通学は、県立高校に通うことが不便な地区であるので、中央線
沿いの私立高校に通う者も多い。一部では生活の本拠は相模湖に置いたまま、八
王子に家を借りて、そこから子どもを学校に通わせている者もあり、こうしたこ
とから、地域の若者が減少しているようにも感じている。(相模湖地区)

就労は中央高速や中央線を利用して都内という方が多く、また通学は県立高校

にバスで通っている方もいるが、都内の私立高校や上野原市の山梨県立高校に通っている方も多い。私見だが、山間部で小学校を核にしたまちづくりができないかと考えている。(藤野地区)

津久井、相模湖、藤野の各地区でも遊休農地の問題が発生しているが、そのすべてが従事者の高齢化や鳥獣被害が原因というわけではなく、中山間地域ということで農機具が農地に入れないというような地形上の要因も大きい。

産業振興という視点でお話をさせていただくと、まず津久井地区は、鉄道がないことから、地区の基幹的な交通手段はバスということになるかと思うが、一番近いターミナル駅である橋本駅に直通しているバス路線がないことが大きな課題であると感じた。相模湖地区については、駅前利便性が高いにも関わらず土地の流動性が必ずしも高くないことなどから、まちづくりが進展しないという点が課題であるが、ポイントは若年層が相模湖に何らかの魅力を感じて、その結果「訪れて」くれることだと思うので、例えば地区内のレジャー施設とうまく連携を図ることでまちづくりを進めていくというようなことができればと思う。また、藤野地区では、駅前でゆずを活用した特産品を販売しているお店があったが、こういうものをうまく活用したまちづくりを行っていく必要があると感じた。

各地区ともに様々な課題を抱えておられるようだが、共通する最大の課題は人口減少である。なぜ、病院がなくなったのか、バスの運行本数が減少したのはなぜか、学校が統合されたのはなぜか、いずれも人口が減少したからである。地区外からいかにして人を呼ぶことができるかが一番のポイントで、これに就労を加味することができればさらに効果的である。

住民のみなさんが、各々の地区の課題を把握し行政に様々な要望をしていくこと、これはこれで非常に重要であるが、一方で、例えば道路の整備が必要であると要望しても、それが実現するのは相当先の話になってしまう。神奈川県内の高齢化が著しく進展しているある地域でアドバイザー的にまちづくりに関わっているが、その地域のスーパーが撤退する話が持ち上がり、それを地域にお住いの方々が自らできる取り組みを行うことで撤回させたことがあり、地域にお住いの方が自ら行動して身近な課題を解決していくという姿勢も大切ではないかと感じている。

多摩ニュータウンのまちづくりについて調査や研究をしているが、まず多摩二

ュータウンでも50年後に人口が現在の約二分の一になると推計されていて、その一環で駅から500メートル圏内の人口と土地利用を調査したことがある。そこから得られた知見としては、まず20代、30代女性の動向がまちづくりの活性化の鍵となるということと、そのためには、特に医療や福祉施設の集約化が大きなポイントになるということ。国も公共施設集約化の取組に補助金をこれまでより手厚く交付するような動きも出てきているようであり、こういった制度の活用も考えられるのではないか。

本日は貴重なご意見を数多く拝聴することができ、大変有意義であった。いただいた意見については、相模原市市全体のまちづくりの方向性などについて検討をしているこの小委員会で、今後の議論の参考にさせていただきたい。本日はありがとうございました。

相模原市都市計画審議会小委員会(第3回)委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	加藤 仁美	東海大学工学部教授	副委員長	出席
2	後藤 純雄	麻布大学生命・環境科学部 環境科学科環境リスク学教授		出席
3	田淵 諭	多摩美術大学美術学部教授 環境デザイン学科長		出席
4	西浦 定継	明星大学理工学部教授	委員長	出席
5	山本 国孝	相模原市農業委員会 会長		出席
6	座間 進	相模原商工会議所専務理事		出席
7	坂本 久	神奈川県宅地建物取引業協会副会長		出席